

奈良史学——一〇号総目次

第一号

発刊の辞

菅野 正 i

網法成立にむけて

森元 文子 四一
森 紀子 六二

論 考

道照伝考

水野柳太郎 一

書 評

近代京都における町自治について

山田 敦子 三一

Hans von Herwarth, Zwischen Hitler und Stalin,

カール大帝の農業政策

堀内 一徳 四九

Erlebte Zeitgeschichte 1931—1945

書 評

蕭啓慶著『元代史新探』を読む

森田 憲司 五九

—元代の士大夫の問題をめぐって—

第二号

論 考

第二号

論 考

信濃国の守護と国人の城下

松山 宏 一

武智麻呂と房前

辻 克美 三一

慶長・元和期における政治と民衆

鎌田 道隆 二一

五四前夜の日中軍事協定反対運動

菅野 正 四四

—「かぶき」の世相を素材として—

史料紹介

一九二〇年代における地主小作関係の一考察

ノジャンのギベールの回想録(1) 守山 記生 七八

—奈良県旧添上郡治道村の事例—

—中世都市ランのコミュニケーション運動—

東大寺の柚経宮と西塔の修造

辻本 弘明 一

—天徳三年の太政官牒と官符をめぐって—

松川 克彦 七九

第四号

論考

石井・ランシング協定の前提	明石 岩雄	一
日中軍事協定の廃棄について	菅野 正	二三
史料紹介		
ノジャンのギベールの回想録(2)	守山 記生	三八

— 中世都市ランのコミュニケーション運動 —

談話記録

西北研究所の想い出—藤枝晃博士談話記録—

藤枝晃述、原山煌・森田憲司編注		五六
-----------------	--	----

第五号

論考

石川年足と山田寺	堀池 春峰	一
聖武天皇勅書銅板と東大寺	鈴木 景二	一一
ペルーの二重言語教育の二類型	青木 芳夫	三九

特別寄稿

十九世紀末中国維新運動与日本

王曉秋著、菅野正訳

i

第六号

論考

大坂観の近世的展開	鎌田 道隆	一
徳川和子の入内と藤堂高虎	久保 文武	二九
藤原不比等の功封について	河内佐智子	五二
フランク・メロヴィング王国の租税とインムニテート		
	堀内 一徳	六九

史料紹介

小野川文庫漢籍目録稿

東洋史研究室編 八〇

第七号

論考

鎌倉時代の守護所	松山 宏	一
大頭入衆日記考	朝倉 弘	二四
清代の北京における菓子屋ギルド及び点心舗について	尾上 葉子	五八

造幣人(monetary)と七世紀フランク王国の貨幣経済

堀内 一徳 八二

書評

陳垣編、陳智超・曾慶瑛校補 『道家金石略』

森田 憲司 九一

第八号

論 考

義和団運動後の福建と日本 菅野 正 一

一五世紀後期におけるダラム司教座聖堂付属修道院の

ワインの調達と市場 森本 麿 一八

東海道日岡峠における木食正禪の道路改修事業

安田真紀子 五九

第九号

論 考

日本霊異記上巻第五話と日本書紀 水野柳太郎 一

唐代州刺史研究―京官との関連― 長部 悦弘 二七

西歐七世紀後半における領域的諸侯領の形成

堀内 一徳 五二

日中戦争論ノート 明石 岩雄 六五

紹 介

松山 宏著『中世城下町の研究』 朝倉 弘 八三

第一〇号―奈良大学史学会十周年記念号―

論 考

紫微中臺と坤宮官 水野柳太郎 一

中世都市の条件について―不確な諸例―

松山 宏 二九

初期幕政における二元政治論序説 鎌田 道隆 四六

『廟学典禮』成立考 森田 憲司 六四

林維源の福建勸業銀行設立計画をめぐって

菅野 正 七七

十二世紀初期のフランドルにおける政変とエランバル

ド一族 守山 記生 九七

中世前期における騎士の戦術と武装

堀内 一徳 一一二

ケチュア語のなぞなぞ

―ペルー・クスコ地方を中心に―

青木 芳夫 一二七

アンヘリカ・パロミーノ青木